

高速・大容量

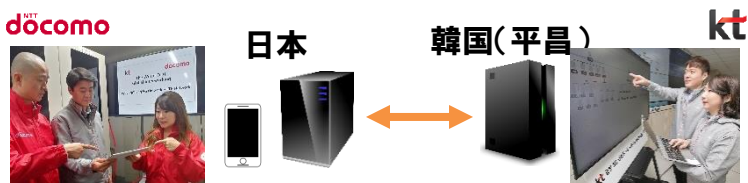
低遅延

多数端末接続

5Gローミング実現に向けた韓国KT社との実証実験

(2018年2月)

KT社の5Gコアとドコモ商用LTE網を接続



5G時代の海外通信の目指すべき姿

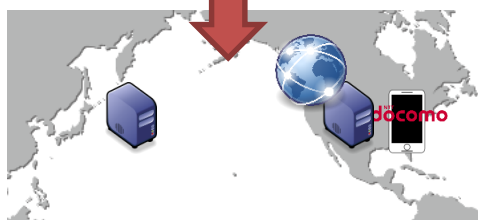
【現行】どこにデータがあってもホーム網経由で接続



【課題】

- ①ネットワークコスト
- ②遅延(UX)

5G時代は大容量・低遅延の通信への対応が必要



現地GWも活用した
オフロード方式併用で
最も経済的に接続

【5G時代】最短ルートのインターネット接続が理想形

概要

- 5G時代では、経済のグローバル化及びIoT機器の広がりに伴い大容量低遅延のデータ通信インフラの提供が求められる
- 既存の接続方式を用いて大容量低遅延を実現しようとするとネットワークコストの経済化が課題となる
- データサーバの距離を最短にすることで、最も経済的かつ要求条件を満たす通信インフラが提供可能となる

利用シーン

- 日本→海外、海外→日本で旅をする旅行者・出張者に大容量高速通信を提供可能
- 世界中にデプロイされるIoT機器の高度化・大量収容が可能

コラボレーションパートナー

ドコモは韓国KT社と2018年1月にKT社が平昌で保有する5Gコアネットワークとの接続を行う実証実験を実施しました。今後はその他海外事業者との実証実験を進めてまいります。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

